

【表題】 航空大学校における CBT (Competency Based Training) の導入について 【論文】

【著者】 西小路 謙

【発表】 航空大学校研究報告 R-62

【時期】 2009年11月

【概要】

今般、景気減退の中にあってもパイロット不足が問題となっている。そのため、航空局においてもエアラインの副操縦士要員を基礎課程から一貫して育成する新たな技能証明 Multi-Crew Pilot License の追加設定を検討中である。この制度は、全くの素人を、規定上わずか 300 時間前後の訓練で、副操縦士として養成しようというものである。このような短時間での養成システムを可能としたのが、高性能な Flight Training Device の有効活用と Competency Based Training (以下「CBT」) である。この CBT については、各国において自家用、事業用操縦士の訓練にも導入を検討しており、現行のタイムベースの品質保証から、コンピテンシーベースの品質保証の考え方に移行しつつある。

MPL の導入を検討している航空大学校においても、その根幹を成す CBT については、効率的な訓練体制の確立の面からも有益なものであり、避けては通れないものであると考えられている。